

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立循誘小学校
1 前年度 評価結果の概要	・人権・同和教育や道徳教育(校内研究)等を計画的に行うことにより、思いやりのある心を育む教育の推進を図ることができた。次年度は、道徳科を中心に主体的・対話的で深い学びとなる授業展開の充実を図る。 ・働き方改革を念頭に据えながら、コロナ禍で縮小されてきた各種行事の見直しと充実を図る。 ・特別支援教育については、個に応じた支援の更なる充実を図る。
2 学校教育目標	夢をもち 仲間とともに 学びを深める 子どもの育成
3 本年度の重点目標	①思いやりの心をはぐくむ教育の推進 ④学校課題への対応強化 ②主体的・対話的で深い学びとなる授業の展開 ③子どもの自尊感情を高める取組

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「自分の考えを相手に分かるように書くことができた」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合90%以上。	・全教科において、自分の考えを書く活動を取り入れる。その際、条件や例文を提示し、児童が見通しをもって取り組むことができるようにする。	B	・児童へのアンケート項目「授業の中で自分の考えを相手に伝えるために分かりやすく書いているか」において、84%が好意的な回答をした。 ・学力向上に向けて、指導方法の工夫・改善を図っている教職員の割合は100%であった。 ・児童の興味や関心を高める単元づくりを心がけ、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業づくりに努める必要がある。また、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための工夫について考えていく必要がある。	B	・子どもたちも落ち着いて授業を受けている。引き続き、学力向上に向けて取り組んでほしい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
	○読書の奨励	○年間貸出冊数(多読賞一低:120冊、中:110冊、高:90冊以上)について、達成率80%以上	・朝読書に全校で取り組む。 ・図書館まつりを中心としたイベントを工夫したり、本の紹介をしたりして、本への興味・関心を高める。	A	・年間貸出し冊数の達成率は88.6%(2/13現在)で、目標値を上回る結果となった。年度末には90%を達成する見込みである。 ・前期の貸出冊数が前年よりも低下していたため、祝日分の図書時間を別日に振り替えるよう呼びかけることで、本を借りたり読んだりする時間を十分に確保できた。	A	・本をたくさん読んでいることは、とてもよいことである。次年度もたくさん本を借りられるように企画してほしい。	・図書館教育担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級担任全員が、授業参観において年1回以上道徳の公開授業を行う。 ○「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・児童生徒支援教員と連携を図り、道徳の授業の充実を行う。 ・「善行紹介(名人紹介)」を継続するとともに、賞の向上を図る。	A	・2学期までに全クラスで道徳の公開授業を行うことができた。 ・「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童は95%だった。 ・12月の人権集会では各学級で考えたあてを公表したり、「みずいろのマフラー」の読み聞かせをして互いの人権の大切さについて話し合ったりして、意識付けを行った。 ・名人委員が給食時間に行っている名人紹介では、友達と頑張っていることやよきについて全校で紹介することで、互いを認め合う雰囲気が高まった。	A	・道徳の授業は難しいと思うが、続けていきたい。 ・人権集会での職員による読み聞かせは、とてもよいと思う。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校で楽しく過ごしているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上 ○毎月の児童アンケート、2か月に1回の保護者アンケートの実施。	・子ども支援部による情報の一括管理と共通理解に基づいた支援を行う。 ・各種アンケート結果からの早期対応を行う。 ・教育相談時間を設定する。	A	・「学校で楽しく過ごしているか」について、肯定的な回答をした児童は96%であった。 ・部会でアンケート結果を共有し、情報交換を行ったことで、気になる児童への早期対応が可能となった。 ・教育相談時間を実施したことで、児童の実態や悩みなどを把握し、教育活動に生かすことができた。	A	・アンケートに気になることを子どもたちが正直に書いていると聞いて安心した。早期対応もできていると思う。	・生徒指導担当 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・特活、道徳、総合・生活を中心に各学年に応じたキャリア教育を充実させる。 ・年度初めに目標を立て、年度末にその振り返りを行う。 ・学校行事や児童会活動を中心に児童の活躍の場を設定して、頑張りを称賛・承認する。	B	・児童会活動では、活動や集会内容を委員会のメンバーで考えながら進めた。行事などでは積極的に児童に出演や役割を与え、その頑張りを承認・称賛した。 ・児童アンケートは、肯定的な回答の目標値90%以上に対し、89%という結果で概ね達成した。 ・キャリア教育については、年間計画に沿って総合や道徳、学活などを通して取り組むことができた。	B	・子どもたちに自信を持たせる活動を計画的に行われているので、とてもよいと思う。評価はBだが、Aに近いBであるとと考えてよい。	・キャリア教育担当 ・特活主任 ・体育主任
●健康・休つき	○「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童85%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上	・感染症、熱中症対策について、全校で予防法を確認する。 ・保健だより等で注意喚起を促す。 ・給食だよりや給食前の放送等を通じて、食と健康についての意識・関心を高める。	B	・「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童は86%で、目標を達成することができたが昨年度よりも下がった。 ・放送や保健だよりで注意喚起をし、12月の児童集会で再度手洗いを含めた感染症予防の確認をした。 ・「健康に良い食事をしている児童」は目標値70%以上に対し、65.3%という結果であった。今後も食と健康についての意識・関心を高めるため、残食ゼロの日等の活動を継続していきたい。	B	・残食ゼロの日がなかったという点だが、食品ロスのことについて考えさせるのも、一つの手だと思ふ。 ・家庭の食卓のことも含めて評価するのは難しいのではないかな。	・養護教諭 ・保健主事
	○安全に関する資質・能力の向上	○防犯ブザーの所持率90%以上 ○避難訓練や交通安全教室の計画的実施 ○「携帯電話等の使用について親子で決めたルールを守っている」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・防犯ブザーの所持について、下校指導時に各学級で確認する。 ・避難訓練や交通安全教室を計画し、児童の命や安全に対する意識の向上を図る。特に、避難訓練については、予告なし訓練や保護者引渡し訓練を実施する。 ・SNSに関する児童・保護者向け講演会を実施する。また、各学期に1回ずつは情報モラル教育を学級で実施する。 ・学校便利による保護者への啓発を行う。	B	・防犯ブザーの所持率は93%で、目標値を上回る結果だった。各学級での日々の指導が良い結果に繋がっている。 ・避難訓練は計画通りに実施できた。担当者だけでなく、部会で案を練ったことで、実のある訓練となった。 ・携帯電話等のルールの遵守について、肯定的な回答をした児童は86%であった。学期に1回、児童の発達段階に応じた情報モラル教育と共に、4・5・6年生の児童と保護者対象として、外部講師による講演会も11月に実施した。	B	・避難訓練も決まった方法ではなく、いろいろなパターンを考えることも大事である。 ・地震避難訓練で机やテーブルの下に真っ先に隠れるよりも、まず、建物の外に避難する方がよいと研修会で聞いたことがある。	・生徒指導担当 ・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・退勤予定時刻申告表に記入する。 ・金曜日を定時退勤日に設定する。 ・長期休業中の年次休暇取得を推進する。	B	・時間外在校等時間45時間未満の職員は74%(1月まで)であった。 ・19時を目途に退勤することができた。 ・定時退勤日には、18時までは退勤できていた。 ・年次休暇総取得日数は昨年より66日増の324日であった。	B	・健康第一で、無理のないように働いていただきたい。 ・休暇が取りやすくなっていることは、よいことである。	・管理職 ・教務主任

評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○研修会を年6回行う。 ○子ども支援会議を年6回行う。	・研修会を実施する。 ・子ども支援会議を開き、情報共有を行う。 ・専門機関との連携を図り、必要に応じて支援会議を開く。	B	・予定通りの研修会及び子ども支援会議を6回 行事前の児童への対応確認を毎回行った。全職員で児童の様子や支援に関する共有ができた。 ・効果的な支援について話し合い、保護者や関係団体等とも共通理解することができた。 ・居住地交流を行い、地域の友達と仲良く過ごす場を持つことができた。今後も続けていきたい。	A	・保育所やこども園等とよく連携ができている。次年度もしっかり取り組んでほしい。 ・支援を必要とする子どもたちが学習等で自信を持てるような指導を今後も続けていきたい。	・特別支援コーディネーター
○社会にかかれた学校づくり	○保護者・地域との連携 ○地域の「人・もの・こと」の活用	○年6回以上の学校公開、月2回の学校発行を行う。 ○保護者アンケートを実施する。	・郷土学習を継続し、地域人材の活用を行う。 ・地域行事(ふれあい祭り、文芸賞等)への参加を促す。	B	・授業参観4回、フリー参観2回行った。 ・学校便りを17回発行した。(2/20現在) ・循誘ふれあい祭りでは、ポスター作りにも協力し、当日は6年生がソーランを披露した。 ・循誘文芸賞に4年生以上が俳句を提供した。	B	・地域行事に参加できていることは、たいへんよいことである。次年度も積極的に参加していただきたい。	・管理職

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	・全職員共通理解のもと、人権・同和教育や道徳教育(校内研究)等を計画的に行うことにより、思いやりのある心を育む教育の推進を図ることができた。次年度は、一人一台端末を活用した、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な授業展開の充実を図る。 ・時間外在校等時間をより一層削減できるように、校時限の調整と各種行事の精選及び見直しを図る。 ・特別支援教育については、職員一人一人のスキルアップと個に応じた支援の更なる充実を図る。
----------------	------------------------	---